

式 辞

二年生の皆さん、進級おめでとうございます。まだ、学校再開には至っていませんが、始業式を、こうして迎えられたこと、共に喜び合いたいと思います。

ここにいる一人一人がそれぞれ新たな目標や決意を胸に、この始業式に臨んでいることが皆さんの表情からよく分かります。本当にうれしく。そして頼もしく思います。

今年度の新入生は、三六名です。新入生は、一つ上の身近な先輩として二年生を頼り、手本として、これから階上中学校での生活を送ることとなります。皆さんには、先輩としての自覚と責任をもって行動してもらいたいと思います。そして、「あいさつ」・「エール」・「防災学習」階上中学校の三大伝統が持続発展できるよう、先輩から多くを学び後輩に伝える橋渡し役として力を貸してほしいと思います。

さて、君たちが私たちと共に歩いていくこれからの社会は、変化が激しく予測が困難な時代といわれています。今、世界を揺るがしている新型コロナウイルス感染症に関わる一連の出来事は、正に、これからの社会を象徴していると言えるでしょう。そのような時代を、社会を生き抜いていくためには、学校教育目標である「自ら学び、互いに協力してやり抜く」力を身に付けることがなお一層重要になります。

「自ら学ぶ」とは、自分で判断し、行動することです。「今必要なことは何か」「自分を成長させるために何が必要か」など様々な視点で考え、目標を立て取り組むことです。

「互いに協力する」とは、異なった価値観や存在を認め、同じ目的のために、対等の立場で活動したり、他の考えを参考に自分の考えを深め、より良いものを創りだしたりすることです。

そして「やり抜く」とは、現状をしっかりとみつめ、必要に応じて修正しながら、その取組や結果に責任を持つことです。

これから始まる、学校生活の全てを通して、「自ら学び、互いに協力してやり抜く」力を育み、これまでであったものや当たり前の事にとらわれず、新たな価値を創りだしていける力を身に付けていきましょう。

先日、中総体中止のメールを見て、驚いたことと思います。現時点でも感染を防止し安全・安心な大会運営を行うことが難しいと判断したからです。それは皆さんも理解できることだと思いますが、当たり前にあると思っていた中総体がなくなり、複雑な思いではないでしょうか。

これまで懸命に部活動に取り組んできた二年生の皆さんの気持ちや中学生として最後の機会を失った三年生の気持ちを思うと、胸が痛くなります。

しかし、大切な大会が開催されなかったとしても、これまでの部活動の取り組みは無駄ではないはずです。今一度、これまでを振り返り、部活動を通して得たもの、成長できたことを思い起こしてください。

これからも、新型コロナウイルス感染症と共に生きていかなければならないと言われていきます。去年一年とは違った学校生活をお願いすることも多くあると思います。しかし、このような時でも、人を思いやる優しさを大切にし、相手の立場や状況を理解して「互いに協力」してほしいと思います。

令和二年度は、限られた時間と限られた条件の中で、皆さん一人一人が仲間と支え合い、共に大きく前進する一年になることを期待して式辞といたします。

令和二年五月十四日

気仙沼市立階上中学校 校長 田中 謙